

## ベネズエラ大統領選挙をどう見るか（2）

前回お知らせしましたように、大統領選挙は、全国で平穏裏に行われ、マドゥーロ大統領が、68%の得票を獲得し再選されました。

しかし、選挙結果を巡り、米国、米国に追随するリマグループ14カ国、米国と親密な関係を持つイギリス、スペインなどのEU諸国などが、低投票率、選挙の基準、公平性、透明性に疑問があり「不正選挙」として、承認しないという合唱を行っています。それらの批判は、「マドゥーロ政権は、独裁色を強め、野党を弾圧し締め出して選挙を強行した、昨年3度の選挙は不正疑惑が付きまとったものであった、ハイパー・インフレ、食料、医薬品の不足で、国民の不満はますます高まり、大量に海外に出国し、経済は破たん寸前で、人道危機に陥っており、国際的にも孤立は深まり、政権運営はますます困難になる」というものです。

こうした見方は、米国のトランプ大統領、ペンス副大統領、ポンペオ国務長官が繰り返して述べており、内外のメディアも、ニューヨーク・タイムズ、ワシントン・ポスト、CNN、BBC、ロイター、時事通信、朝日、毎日などなど、報道はトランプ政権の報道とほとんど同じ内容で行われています。果たして、ペンス副大統領などトランプ政権が、現実を正確にとらえているのか、それとも、それに並走して報道するメディアが、トランプ政権のメディア作戦に巻き込まれているのでしょうか。

日本の安倍政権は、トランプ政権の外交政策への忠実度で、世界でも際立っていますが、ベネズエラについては、これまでオリノコ河畔の石油開発、トヨタなどの自動車産業の存在などから、踏み込んだ発言を控えていました。しかし、アルゼンチンでのG20外相会議に出席していた米国のサリバノ国務副長官が、20日米国は改めて結果を受け入れない考えを強調、アルゼンチン、カナダ、オーストラリア、メキシコ、チリと（日本は、ドナルド＝晋三の関係にもかかわらず、ナウアート報道官の発表では入れてもらっていないようでしたが）マドゥーロ政権批判のため協議を行ったと発表しました。すると、河野外相は、仲間はずれにされてはならないと、従来の慎重な態度を変えて、「ベネズエラ大統領選は、国民の意見が反映した選挙になっているか大いに疑問だ、欧米からもマドゥーロ氏の再選を批判する動きが出ている、日本も何らかのメッセージを出していきたい」として、主体性のない姿を示しました。

はたして真相はどうでしょうか。中南米で良心的な通信社、テレスル、ブレンサ・ラティーナ、ベネズエラの中立系新聞ウルティマ・ノティシアス、反政府系のグロボビジョン、エル・ユニベルサルを良く見ると、違った風景が見えてきます。

ベネズエラ国民の気持ちは、マドゥーロ政権から、狂信的なチャベス主義者を除いて完全に離れているのでしょうか。ベネズエラでは、昨年から今回の選挙で4回の選挙が行われました。それらを簡単にたどってみましょう。

17.07.30 545の制憲議会選挙が行われました。選挙には与党の諸政党、市民組織が参加しましたが、反政府勢力のMUD（民主団結会議）は、憲法上問題があると反対し参加しませんでした。しかし、経過を見れば、当時マドゥーロ大統領は、このように語っています。

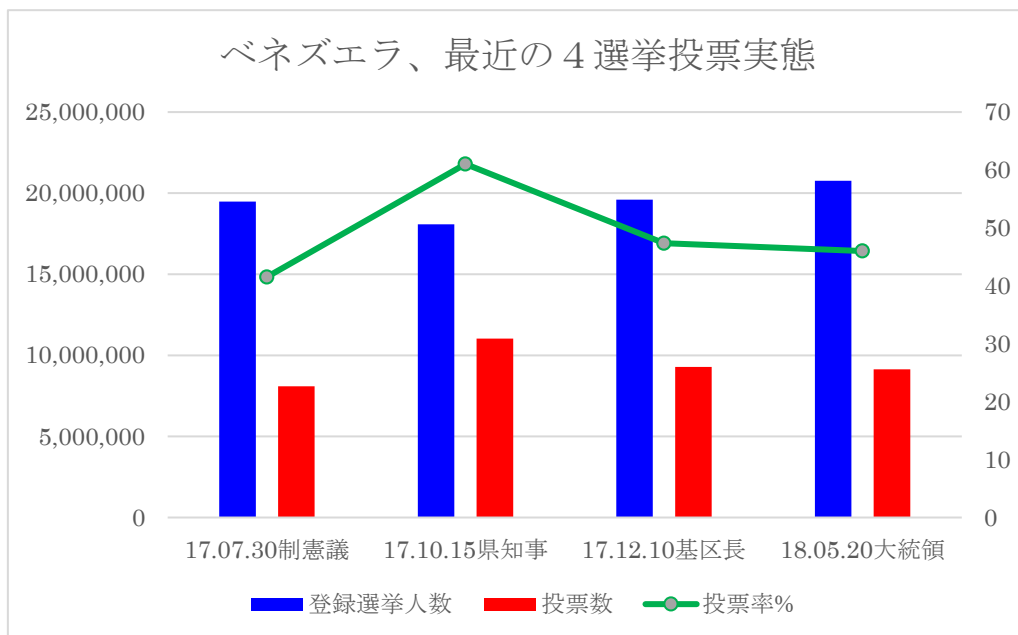
「MUDは、彼らの候補者を登録できるように制憲議会選挙実施を3～4週間延期するように提案してきた。さらにまた、野党は、そのうち二つの党（筆者註：民主行動党、COPEI）が制憲議会に賛成し、二つの党（筆者註：最過激派の正義第一党＝カプリレスの党、大衆意志党＝ロペスの党）が反対していた。私は、反対派も制憲議会に入るべきだと考えを述べ、野党に50議席を提案した。すると野党は100議席要求してきたので、それを受け入れた。しかし、その後2日して理解できないことに、受け入れないといってきた。

また、7月30日の選挙前に、野党は、われわれとの会議で従来の国会と制憲議会が共存することについて合意した。そしてその合意書にまさに署名しようとしていた時、ある大使館（筆者註：米国大使館）から野党側（正義第一党）の携帯に電話があり、野党は合意書に署名しないと述べた」（Últimas Noticias, 17.09.17, Contrapunto, 17.09.17）。つまり、野党も制憲議会の設置と役割に、また制憲議会選挙の実施には同意していたのです。（拙稿「制憲議会設立に際しての驚くべき裏話」2017年9月22日参照）。この事実から見ても、チャベス派が、強行に制憲議会を設置したとの批判は、一面的です。このマドゥーロの発言に対する反論は、現在に至るも野党側から行われておりません。

17年10月15日、全国23の県知事選が実施されました。与野党、全ての政党が参加、国民の信が問われました。与党の大祖国勢力18議席を、野党勢力は、民主行動党4議席、正義第一党は1議席獲得するにとどまりました。与党は5,814,903票、55.07%、野党は4,983,626票、44.31%獲得しました。この選挙での数字は、全ての政党が参加しただけに、掛け値なしの与野党の支持率と考えられます。

17年12月10日、全国335基礎行政区の区長選挙が行われました。10月の県知事選に参加した野党のほとんどは、惨敗が見通されることから、参加を見送りましたが、野党の民主行動党やキリスト教民主党（COPEI）などの候補者も個人で参加しました。大祖国勢力は、306区長(71.31%)、野党は29区長(28.69%)を獲得し、チャベス派の圧勝でした。県知事選、基礎行政区選挙とも不正選挙との批判は、ベネズエラのメディアからは、ほとんどありませんでした。

(グラフ1)



出所：CEN（ベネズエラ全国選挙管理委員会）

18年5月20日、大統領選挙は、野党勢力のMUDの大半が不参加する中、マドゥーロ候補（シモン・ボリーバル拡大祖国戦線）、ファルコン候補（進歩前進党、キリスト教民主党COPEI、社会主義運動）、ベルトウッシ候補（変革希望党）、キハーダ候補（国民政治団結89党）が参加し、マドゥーロ候補が67.79%を獲得し、再選されました。

こうして見ますと、はたして独裁政権のもとで、4回も、反対勢力に対する弾圧もなく、反対勢力も参加して自由に選挙キャンペーンが行われ、全国選挙が行われるのでしょうか。

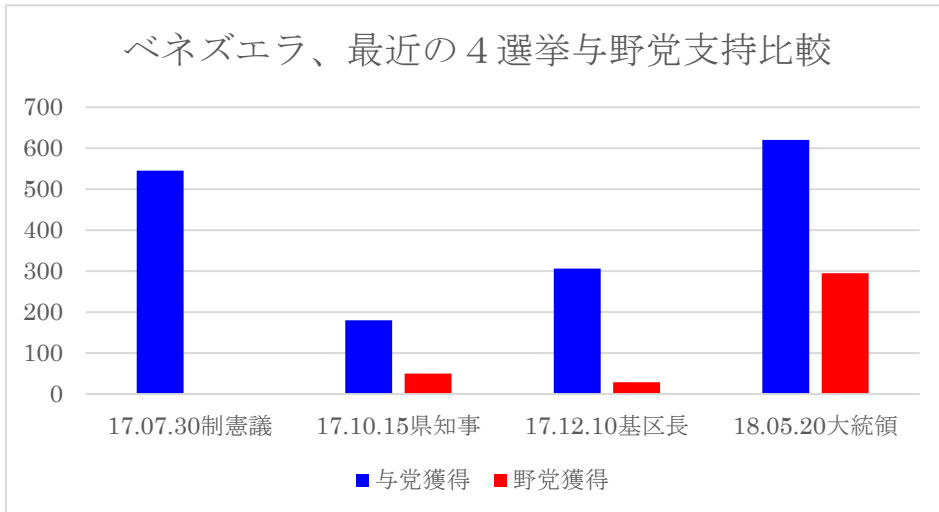
上記のグラフ（1）で分かるように、10月の県知事選を除き、投票率に大きな変化はないのです。600万票程度の支持をもっている野党の主要部分が参加するか、どうかで県知事選と大統領選挙に見られるように、投票率に20%程度の違いが出るのは当然で、国民の関心の度合いというよりも、野党の投票態度による変数なのです。

しかも、これを米国、アルゼンチン、コロンビア、チリの大統領選挙と比較すると、得票率（左側）、投票率（右側）ともマドゥーロの数字は、上回っています。国際的にみても異常な数字ではないのです。

 Nicolás Maduro	% Votación Elección 2018 <b>67,8%</b>	% Votación sobre padrón electoral <b>31,7%</b>
 Donald Trump	% Votación Elección 2016 <b>46%</b>	% Votación sobre padrón electoral <b>27,3%</b>
 Mauricio Macri	% Votación Elección 2015 <b>51,2%</b>	% Votación sobre padrón electoral (1ª vuelta) <b>26,8%</b>
 J.M. Santos	% Votación Elección 2014 <b>53,1%</b>	% Votación sobre padrón electoral <b>23,7%</b>
 Sebastián Piñera	% Votación Elección 2017 <b>54,6%</b>	% Votación sobre padrón electoral <b>26,5%</b>

与野党の支持を見ても、チャベス派の優位は、県知事選、基礎行政区長選、大統領選でも変わりません。MUDは、昨年4月以来の暴力的街頭デモで、国民のひんしゆくを買い、支持が大きく離れています。ほとんどの世論調査では、70%近い国民は、与野党が対話で平和的に建設的に議論し、厳しい経済困難を克服してほしいと願っていることを示しています。対話にしてもMUD自身、最過激派の大衆意志党（MUDの中では第4勢力）を除き、対話が必要なことは理解しており、本年1～2月には、与野党対話に参加し、今回の大統領選挙の実施日も選挙の方法も合意していたのです。選挙期日については、当初野党側は6月10日を、与党側は3月8日を提案し、交渉の結果、双方が折り合い4月22日に決定しました（メディアーナ、記者会見YouTube, Telesur 18.02.07）。しかし、実際はさらに野党の希望に近い5月20日に設定されたのです。この時の選挙方法は、15年12月国会議員選挙（野党圧勝）の方法を採用することで、双方が合意していました。しかし、この合意も、またまた米国大使館からの圧力で、野党は撤回しました。今回の大統領選挙は、それと同じ方法で行われたものです。

したがって、今回の大統領選を監視していた「ラテンアメリカ選挙専門家理事会」（CEELA）は、「投票は自由に行われ、ベネズエラ人の意思が尊重された。結果を全員が認めるべきだ」とする見解を表明したのです。



出所：CEN

(註) 制憲議会は、議席数。野党ゼロ。県知事選は、与党18県、野党5県ですが、視覚的にわかるように10倍してあります。基礎行政区長選は、区長の実数です。大統領選は、得票数の比較です。

<表ベネズエラ、国政選挙結果>

	有権者数	投票数	投票率 %	与党得票数	与党得票率 %	野党得票数	野党得票率 %	無効票	無効票率 %
2006	15,787,777	11,790,397	74.69	7,309,080	62.84	4,292,466	36.90	160,245	1.35
2007	16,093,743	8,883,746	55.2	4,379,392	49.29	4,504,352	50.70		
2009	16,652,179	11,710,740	70.32	6,310,482	54.85	5,193,839	45.14	206,419	1.76
2010	17,575,975	11,679,235	66.45	5,442,020	46.60	5,320,175	45.55		
2012	18,606,798	15,010,584	80.67	8,136,964	55.25	6,499,575	44.13	284,899	1.89
2013	18,904,364	14,983,953	79.78	7,575,704	50.78	7,302,648	48.95	66,691	0.44
2018	20,527,571	9,156,093*	46.04	6,205,875	67.79	2,942,043	32.20	177,155	1.89

出所：CEN

\*開票率98.73%

(続く)

(2018年5月23日 新藤通弘)